ワークシート①　太宰治の作品〈冒頭部分〉

二年（　）組（　）号（　　）

学習日　　月　　日

富嶽百景

富士の頂角、広重の富士は八十五度、文兆の富士も八十四度くらい、けれども、陸軍の実測図によって東西及南北に断面図を作ってみると、東西縦断は頂角、百二十四度となり、南北は百十七度である。広重、文兆に限らず、たいていの絵の富士は、鋭角である。いただきが、細く、高く、華奢である。北斎にいたっては、その頂角、ほとんど三十度くらい、エッフェル鉄塔のような富士をさえ描いている。

東京八景

伊豆の南、温泉が湧き出ているというだけで、他には何一つとるところの無い、つまらぬ村である。戸数三十という感じである。こんなところは、宿泊料も安いであろうという、理由だけで、私はその索漠たる山村を選んだ。昭和十五年、七月三日の事である。その頃は、私にも、少しお金の余裕があったのである。けれども、それから先のことは、やはり真暗であった。小説が少しも書けなくなる事だってあるかも知れない。

帰去来

人の世話にばかりなって来ました。これからもおそらくは、そんな事だろう。みんなに大事にされて、そうして、のほほん顔で、生きて来ました。これからも、やっぱり、のほほん顔で生きて行くのかも知れない。そうして、そのかずかずの大恩に報いる事は、おそらく、死ぬまで、出来ないのではあるまいか、と思えば流石に少し、つらいのである。

実に多くの人の世話になった。本当に世話になった。

気付き